

インデックスについて

鯨井秀伸

はじめに

この小論の目的は、史料編集の研究に関連したドキュメンテーションの方法を再考し、近年の情報技術の展開に照らして、美術資料の組織的記録に有用な方法、およびコンピュータ利用の有力な援助となる方法について実例を交えて考えることにある。美術の歴史における知識は、1世紀のプリニーによる「媒体」から、16世紀のヴァザリによる「様式と流派」、そして17世紀の古典学者ド・モンフォーコンの「アイコン」までの伝統的なモデルによって秩序づけられてきた。現在でもそれらは、収蔵庫の収納の仕方やカタログ編集の中に反映している。しかしそれらモデルは、主題内容へ、またそれを越えて美術作品の全体的コンテキストへと拡大しつつある。美術作品の多くの異なった諸側面を強調しながら、様式的影響というある意味で閉じた世界から、歴史的出来事や経済的力、心理的現象、そして社会的発見また言語的分析や哲学的理論等との関係性において研究されるようにもなっている。美術作品を美学的対象として調査研究することから、歴史的証拠として、またプロセスや言語として研究することにまで拡大していると考えることができよう。美術に関連する資料・史料編集には、こうした背景を考慮する必要がある。この小論はこうした展開を踏まえ、美術に関連する知識に、いわば名前をつけ、定義し、秩序づける方法について、インデックス・システムを応用して考えようとする。

この小論を書くにあたり、インデックス・システム（ICONCLASS（註1）の表記の関係上、それぞれの表示法（notation）とカテゴリは現用のまま（英語）としている。実際これらのインデックス・コードとカテゴリを使用しているすべての機関は、英語をそのまま使用しているし、典拠となる文献資料の組織化もそのコード体系の中に組み込まれているため、また翻訳は別の問題を引き起こすことから、現用のままとした。ICONCLASSは、オランダ製のシステムではあるが、その発端から英語で設計され、それがそのままさまざまな国際的プロジェクトの中で使用されるよう共通語として使いつづけている。実際の利用に際しては、これら

のインデックス・コードの追加変更を維持・推進するワーキング・グループが組織されており、そこでは現行のシステムをそのまま拡張展開することを目指している。このインデックス・システムは、デンマーク、ドイツ、英国、イタリア、オランダ、スペイン、スイス、アメリカの合計約四〇機関が利用している。この小論では、便宜的に索引という用語は単語索引のために使用し、コードによる場合はインデックスという用語を使用した。

インデックス・システムについて

「アイコノグラフィの研究は、美術がその主題によって目録化されることはめつたにないため、その研究に内在する問題を研究者に提出することになる。補助となるリソースを欠いていることは共通した不平の種となっている」(註2)。この引用は、一九八八年に、GAHIP(ゲッティ美術情報プログラム)によって出版された『Object-Image-Inquiry: the Art Historian at Work』という興味深いレポートからのものである。アイコノグラフィは美術史の主要な分野の一つとなってきたが(註3)、これまでのところ美術作品がその主題によって目録化されることはほとんどなかった。ごく最近まで、特に西洋美術についてのアイコノグラフィに関するドキュメンテーション・システムが、出版という形で存在していなかったことが理由にあげられよう。

ウォーバーグ研究所やプリンスストン・キリスト教美術索引のような個別の機関は、もちろんそれぞれの資料に対するアイコノグラフィに関連するエントリーを作るために、あるいはそれらの写真資料を特定の順序にアレンジするために、機関独自のシステムを創ってきた。しかしながら、これらはいわば「単語索引システム」であり、この「単語索引システム」は、アイコノグラフィに関する目録を制作したり出版したりすることには適していない。コンピュータによるデータ・データベースにおいてさえ、フランスで使われている「Thesaurus Iconographique」(註4)のような「単語索引システム」は理想とはいえない。すでに指摘されているように、「単語検索」は確かにこれまでのところ有用であるが、分類には十分ではない(註5)からである。

ライデン大学の故ヴァン・デ・ワール教授は、五〇年代初期にすでに多くのこうした問題に気付いていて、アイコノグラフィに関する同種の別のシステムを開発するのではなく、むしろ英数字によるシステムを開発しようとした。このシステムはICONographic CLASSificationの略で、ICONCLASSと呼ばれている。この小論で取り上げるのがこのドキュメンテーション・システムである。美術作品および美術資料の内容と主題とを分類する上で好結果をもたらすシステムとしてのICONCLASSの価値と長所は、とりわけその基盤となる膨大な書誌を背景とした知的世界と論理的構造にある。このシステムは一般的に認められる典拠となりうるし、また先に記したように様々な機関において個々のプロジェクトに利用されてきているため、国際的な標準となる可能

性を持っている。

基本的概要と機能

簡略にこのシステムは何であり、どのように機能するかを説明する。第一の質問である、この ICONCLASS システムとは何かについては、これは本来、再現描写的な美術に描写され描かれる、あるいは描かれる可能性のあるテーマ・主題・対象・人々等を分類するためのデシマル・システムである。システムは、システム番号あるいは表示法と、その表示法が何を意味するかというテキストによる記述によって成り立っている(図1)。

ICONCLASSには、九つの主要カテゴリーあるいは区分が創られている。そのカテゴリーの中に、視覚芸術において描かれるあらゆるものが場所を得られることになる。

1. Religion and Magic
2. Nature
3. Human Being, Man in General
4. Society, Civilization, Culture
5. Abstract Ideas and Concepts
6. History
7. Bible
8. Literature
9. Classical Mythology and Ancient History

この九つのカテゴリーには、近年〈0. Abstract, Non-representational Art〉が追加され、抽象的概念まで包含することができるようになり、そのシステムの適用は、ロシア・アヴァンギャルド美術に応用され、近現代への適応が試みはじめられている。

これらカテゴリーの内最初の五区分は、主に一般的アイコノグラフィを扱い、再現可能なものの基本的なあらゆる諸側面を含むようデザインされているのに対し、6から9の区分の他のカテゴリーは、聖書や歴史あるいは文学的源泉からの、伝統的で一貫したテーマを維持するための手段として創られており、特に第7区分の聖書と第9区分の古典的神話に重点が置かれていて、より個別的で具体的な美術の主題をカバーしている。九つのカ

73 D 3 Christ's arrest, trial, and torture

73 D 34 2	Judas is disemboweled after a fall	
34 3	Judas hanging himself	⊕
34 4	Judas' punishment in hell	⊕
34 5	chief priests buying the potter's field	
73 D 35	tortures of Christ	⊕
73 D 35 1	flagellation by soldiers, Christ usually tied to a column (Mt. 27:26; Mk. 15:15; Jo. 19:1)	⊕
35 11	preparations for the flagellation	
35 12	Christ with wounds caused by scourging	⊕
35 12 1	Christ on the whipping-post (after the flagellation)	⊕
35 13	Christ collecting his clothes	⊕
73 D 35 2	the crowning with thorns: soldiers with sticks place a thorny crown on Christ's head (Mt. 27:27-31; Mk. 15:16-20; Jo. 19:2-3)	⊕
35 21	preparations for the crowning	
35 22	head of Christ with crown of thorns	
73 D 35 3	mockings of Christ, who may be blindfolded	⊕
35 31	in Caiaphas' palace he is mocked by Jews (Mt. 26:67-68; Mk. 14:65)	
35 32	in Pilate's palace he is mocked by soldiers (Lk. 22:63-65)	
73 D 35 4	Christ resting after his tortures, 'Herrgottsrühbild' 'Christus im Elend' 73 D 52	⊕
73 D 35 5	Christ in prison (alone)	⊕
73 D 36	Pilate showing Christ to the people, 'Ostentatio Christi', 'Ecce Homo' (Jo. 19:4-6)	⊕
	choice between Christ and Barabbas 73 D 32 31 1	
36 1	Christ alone (also called 'Ecce Homo') Man of Sorrows 73 D 73	
73 D 37	Christ, lying on or dragged across a flight of steps, is maltreated in Pilate's presence (breaking of the reed) Scala Santa 11 D 43 5	

for KEY to division 7 see p. 267

テゴリーの中の項目は全て組織的に構成されていて、ICONCLASSのそれぞれの区分の中において、順次精細になる明示的表示法に従ってその定義がなされている。主要な区分は、第一番目のディジットの右側に二番目のディジットを加えることによって、より詳細な九つ（近年のワーキング・グループによる改善により、『Ripa』を加えて一〇とする場合もある。）の副区分に分けられている。例えば、第2区分の〈Nature〉（自然）は、次のように副区分されている。

- 20 'Natural' (allegorical figure or scene; or as Diana of Ephesus, with many breasts); 'Natural' (Ripa)
- 21 the four elements, and ether, the fifth element
- 22 natural phenomena
- 23 time
- 24 the heavens (celestial bodies)
- 25 earth, world as celestial body
- 26 meteorological phenomena
- 29 surrealia, surrealistic representations

第三番目の段階の明示的表示法は、大文字のアルファベットを付加することにより得られる。この明示的な表記は、九つの代りに二五（『Ripa』を加えて二六とする場合がある。）まで副区分を拡張できる。また、表示法の読み取りやすさも確保している。例えば〈25 earth, world as celestial body〉の副区分は、以下のようになる。

- 25 0 'Mondo,' 'Machina del mondo' (Ripa)
- 25 A maps, atlases
- 25 B continents represented allegorically
- 25 C geological phenomena
- 25 D rock types; minerals and metals; soil types
- 25 E geological chronological division; historical geology
- 25 F animals
- 25 G plants; vegetation
- 25 H landscapes

- 25 I cityview, and landscape with manmade constructions
- 25 K landscapes in the nontemperate zone, exotic landscapes
- 25 L cities represented allegorically or symbolically
- 25 M the Seven Wonders of the World
- 25 N fictious countries

ある特定の点において、ICONCLASは、アルファベットの大文字を繰り返すことによってオプションを付加できる。表示法〈25 F〉は、〈animals〉を意味するが、それに対し〈25 FF〉は、〈fabulous animals〉を意味するという具合である。アルファベット順に「文字」を利用することで、全ての副区分は階層の中を降順に深くなってゆく。それは、それぞれの表示法の右側にディジットを付加してゆくことで得られる。以下の例は、〈25 F animals〉という区分について、第一番目の副区分を示している。

- 25 F 1 groups of animals
- 25 F 2 mammals
- 25 F 3 birds
- 25 F 4 reptiles
- 25 F 5 amphibians
- 25 F 6 fishes
- 25 F 7 lower animals
- 25 F 8 extinct animals
- 25 F 9 misshapen animals; monsters

以上が一般的な構造であるが、以下において美術に関係する例を取り上げる。もし我々が聖書の主題である、〈the Flagellation of Christ〉という主題を分析しようとする場合、それは〈73 D 35 1〉であるが、以下のような階層を見出すことになる。

- 7 = Bible
- 73 = New Testament

- 73 D = Passion of Christ
 73 D 3 = Christ's arrest, trial and torture
 73 D 35 = tortures of Christ
 73 D 35 1 = flagellation by soldiers, Christ usually tied to a column

以上の概略および機能にしたがって、美術分野の資料について I C O N C L A S S の標準的な表示法を例示すると以下のとおりとなる。例として取り上げるのは、旧約聖書、士師記九章四八―四九の部分、「アビメレクは、自分の率いる民をすべて伴ってツアルモン山に登り、斧を手に取って木の枝を切り、自分の率いる民に向かってこう言った。『わたしが何をするのか、お前たちは見た。急いで、お前たちも同じようにせよ。』民は皆それぞれ枝を切ると、アビメレクについて行って…」という記述の部分である。(このシステムのための聖書のテキストの典拠は、『Revised Standard Version (the 'Common Bible')』であるため、邦文のテキストとして採用した『新共同訳「聖書 旧約聖書続編つき」』とは異なるがある。また表示法と関連するテキストは、視覚芸術上取り上げられてきた「主題」に関するものであるため、テキスト典拠とは必ずしも一致しない)。上記、士師記九章四八―四九に関連する主題は、以下のような表示法を取る。

表示法と関連するテキスト:

71 F 21 87 1 Abimelech's soldiers imitate him in cutting boughs from the trees with an axe

この表示法に到達するため、システムの階層を降順に辿ると、その結果は、次のようなリストを持つ表示法と関連するテキスト群となる。

表示法と関連するテキスト

- 7 Bible
 71 Old Testament
 71 F the time of the Judges
 71 F 2 Judges 6-12
 71 F 21 the time of Gideon (Jerubbaal) << the book of Judges
 71 F 21 8 the story of Abimelech, king of Shechem (Judges 9)

O

O bona crux

Andrew adores the cross ('O bona crux') 73 F 25 34 2

oak

St. Boniface cutting down an oak-tree 11 H (BONIFACE) 43

St. Louis IX giving justice beneath the oak of Vincennes 11 H (LOUIS IX) 44
trees (with NAME) 25 G 3 (..)

the idols (and ear-rings) are hidden under an oak at Shechem 71 C 32 51 1

the angel of the Lord, sitting under an oak-tree, appears to Gideon, who
is usually shown threshing wheat 71 F 21 21 1

Absalom, put to flight on a mule, remains hanging by his hair in an oak-
tree 71 H 84 9

the Golden Fleece, hanging on an oak-tree, is seized by Jason 94 A 46 1

Aeacus standing near an oak-tree with a swarm of ants in it, begs Jupiter
to repeople his kingdom 95 A (AEACUS) 61 1

Erysichthon fells an oak consecrated to Ceres 95 A (ERYSICHTHON) 41

Aeetes hangs the Golden Fleece on an oak in a grove sacred to Mars
95 A (PHRIXUS) 35

after having reached extreme old age, Philemon and Baucis are changed into
an oak and a lime-tree whose boughs intertwine 97 A 4

for murdering Orpheus, the Thracian (Ciconian) women are changed into
oak-trees by Bacchus 97 AA 8

oar

attributes of St. Julian the Hospitaller see 11 H (JULIAN)

oaring, sculling 46 C 23 23

oasis

oasis 25 K 16 1

the Israelites come to the oasis of Elim, where they find twelve springs
and seventy palm-trees 71 E 12 42

oath

see also *swearing*

oath 'more Judaico' (Jew before court, swearing humiliating oath) ~ anti-
semitism 12 A 93 1

Frigg, wife of Odin, takes oaths from all creatures, as well as from fire,
water, metals, trees, stones and illnesses, not to harm her son Balder;
she leaves out the mistletoe 12 LL 13 (FRIGG) 3 : 25 G 1

new ruler taking the oath 44 B 16 41

revolutionaries taking the oath 44 F 51 1

swearing an oath (with two fingers raised) 44 G 15 1

hand touching beard (swearing an oath) 44 G 15 11

woman touching her braids (swearing an oath) 44 GG 15 11

taking the oath ~ military service 45 B 25 1

breaking of an oath ~ military service 45 B 25 11

Oath 57 A 61 42

Eliezer taking the oath: Abraham sends him to his relatives in Mesopotamia
to find a wife for Isaac 71 C 21 1

Saul's oath: a day of fasting 71 G 23

the people assemble in Jerusalem; they offer sacrifices and take the oath
that they will worship only God 71 L 13 12 2

the Jews take an oath to put aside their foreign wives 71 R 22 5

73 D 34 4 Judas' punishment in hell

Réau II (2) 443

73 D 35 tortures of Christ

Donati, Miniatura, 588 s.v. Gesù percosso

J. Marrow, 'Circumdederunt me canes multi': Christ's tormentors in Northern European art of the late middle ages and early renaissance, *Art Bull.* 59(1977)167-181

W. H. Beuken, Passietonelen en middeleeuwse volksdevoties, Fs. Cornelis Gerrit Nicolaas de Vooy, Groningen 1940, 9-19

B. Bagatti, Il museo della flagellazione in Gerusalemme, Gerusalemme 1939

73 D 35 1 flagellation by soldiers, Christ usually tied to a column

Donati, Miniatura, 572 s.v. Flagellazione di Cristo - Kirschbaum II 127 - Knipping (2nd ed.) 523 s.v. Flagellation of Christ - Réau II (2) 451 - Schiller II 76

L. Borgo, New questions for Piero's 'Flagellation', *Burl. Mag.* 121(1979)546-553T. Gouma-Peterson, Piero della Francesca's Flagellation. An historical interpretation, *Storia dell'arte* (1976) No. 28, 217-233

M. Aronberg Lavin, Piero della Francesca: The Flagellation, [London 1972]

M. Aronberg Lavin, Piero della Francesca's 'Flagellation': the triumph of Christian glory, *Art Bull.* 50(1968)321-342

P. Murray, A note on the iconography of Piero della Francesca, Fs. Ulrich Middeldorf, Berlin 1968, 175-179

B. Bruni, La Sacra Colonna della flagellazione in Santa Prassede, *Capitolium* 35(1960)No. 8, 15-19A. de Leiris, Manet's 'Christ scourged' and the problem of his religious paintings, *Art Bull.* 41(1959)198-201M. Meiss, The case of the Frick Flagellation, *Journ. Walters Art Gall.* 19/20(1956-1957) 43-63

M. Schapiro, On an Italian painting of the flagellation of Christ in the Frick collection, Fs. Lionello Venturi, Roma 1956, I 29-53

C. Gilbert, On subject and not-subject in Italian renaissance pictures, *Art Bull.* 34(1952)202-216 (i.p. 208)E. H. Gombrich, Piero della Francesca, *Burl. Mag.* 94(1952)176-178 (see also Idem, *Journ. Warburg Inst.* 22(1959)172)

~ typology

BP, Cornell 98 (No. 36) (Achior is tied to a tree 71 U 33 31; the princes cast Jeremiah into a dungeon 71 O 76 62 6), 295 (the law of the forty stripes 12 A 27 (Deut. 25:2-3): 44 G 37 3; the princes smite Jeremiah 71 O 76 62 6), 295 (Cain kills Abel 71 A 82; death of the seven Maccabean brothers and their mother 71 Z 36); 295 (Lamech beaten by his wives 71 B 15 21; flagellation of Job by his wife 71 W 53 1) - CC, RDK III 846:87 (Jeremiah is tortured 71 O 76 62 2; Achior is tied to a tree 71 U 33 31) - SHS, Breitenbach 182 (Achior is tied to a tree 71 U 33 31; Lamech beaten by his wives 71 B 15 21; flagellation of Job by his wife 71 W 53 1)

71 F 21 87 the tower of Schechem

71 F 21 87 1 Abimelech's soldiers imitate him in cutting boughs from the trees with an axe

システムへのアクセスは、三巻で構成されるアルファベット順のインデックスによる。このインデックスは、関連する見出しのもとにある、あらゆるテーマ・主題・対象・人などへの参照を与える。そうした理由から、例えば〈oak〉というキーワード(図2)のもとに、我々はオーク(柏・植物)に対する表示法への参照(表示法は、〈25 G 3 (OAK-FREE)〉を見出すばかりでなく、視覚芸術におけるオークの木が演じる役割に関し、ほとんどあらゆる種類の場面を見出すことができる。一五〇〇頁以上を持つ、このアルファベット順インデックスは、現在まで出版された最も大部のアイコノグラフィー集成となっている。例えば、〈Flagellation of Christ〉に関連する文献は図のような書誌を示す(図3)。美術作品のアイコノグラフィーに関連する主題のインデックス編集作業にあたり、ICONCLASSの利用者がどのようにアイコノグラフィーに関する研究・調査のための基本的資料を集めて整理するかは、参考図(図4)のようなダイアグラムとなる。



図4. ダイアグラム ICONCLASSを利用したアイコノグラフィー研究のための基本的資料の収集法



図6. レオン・ダヴァン 〈バシバエとダイダロス〉

フランス国立図書館



図5. ジャコモ・フランチャ 〈ルクレティアの自害〉
大英博物館版画室

機能の応用

以上が、一般的な利用者の視点からみた機能の概略であるが、我々にとって問題となるのは、どのようにこのシステムがアイコノグラフィーに関する資料へのアクセスを考案するために使われるか、あるいはどのような利点をアイコノグラフィーのインデックス編集者にもたらすかということである。アイコノグラフィーに関連する視点から美術作品のインデックスを作成する場合、何をインデックスするかということを考慮しておく必要がある。ここで問題となるのは、どのような美術作品をインデックスするかではなく、どの側面から美術作品をインデックスするかということにたいする考慮である。通常、再現的美術作品の「意味」におけるアイコノグラフィーの層は、三段階に分けられるが、ここで取り扱われるのは第二段階までである。ジャコモ・フランチャの作品から図によって例をあげると(図5)、第二段階の記述は、アイコノグラフィー以前の記述と呼ばれ、「a nude standing woman seen from the front」, 「holding a dagger in her right hand」(正面から見た裸婦立像で、右手に短剣を持つ)二等である。この場合、さまざまな厳密さを欠くことにはなるが、記述は再現描写の要素の要約となる。第二段階は、アイコノグラフィーに関する記述で、普通美術作品の主題と呼んでいるものであり、第一段階の諸要素を結合したものである。ここでは、「The Suicide of Lucretia」(ルクレティアの自害)である。第三段階は、アイコノグラフィーについての解釈で、画像の意味である。ここでは「Virtuousness」(高潔)である。アイコノグラフィーのインデックス編集者に関係するのは、以上の第二段階までである。第三段階の画像の意味は、美術史研究者の議論に属し、ドキュメンテーションの機能の質を高めることは関連性がないと思われるからである。この場合には例外があり、寓意像あるいは擬人化に関連する場合である。擬人化された抽象的概念の多くは、比較的定まったアイコノグラフィーを持っていて、文献のソースを利用して、同定可能である。また、画像に記述(銘記や説明など)がある場合、作者はその再現描写で何を意味しようとしているかが明らかであるからである。アイコノグラフィー以前の記述とアイコノグラフィーに関する記述の二つの層における意味に関して、ICONCLASSは通常この二つをシステム内で組み合わせて結合させているため、インデックス編集に当たり、第一段階と第二段階を区別して使用する必要はない。

次に視覚芸術のいくつかの例を取上げ、実際に当たりながらICONCLASSを使用したインデックス作成への応用をみてみたい。西欧の、特にイタリアの版画作品は、バルチュや他の著者によって、多くのタイトルが与えられてきた。しかしながら、それらの同定には不正確なものや誤ったものが時折見受けられる。例えば、フオンテーヌブロー派のエングレーヴィング作家レオン・ダヴァン(LDのマスター)による版画(図6)の主題は、現在まで知られていない。そのタイトルは、「A goddess showing a herd of bulls to an old peasant」(老農民

に牛の群れを示す女神) (註6) である。〈goddess〉(女神) 〈bull〉(牛) 〈peasant〉(農民) などをアルファベットの順インデックスで参照すると、〈bull〉の表示法の下 〈Pasiphae〉(パシパエ) の物語が画像の内容にふさわしい項目であることがわかる。クレタのミノス王の妻パシパエは、牛と恋に落ち、自分の欲望を満足させるため、ダイダロスに木で牛の像を造るよう頼んだ (註7)。I CONCLASSのこの主題に対する記述〈Pasiphae confides her unnatural passion for the bull to Daedalus〉(ダイダロスに牛への不自然な情熱を託すパシパエ) は、この画像の再現描写のほとんどをカバーしている。また、アイコノグラフィ以前の記述についてのあまり重要でないと考えられる要素は、パシパエの〈pointing〉(指差す) あるいは〈indicating〉(指し示す) 動作と、〈clouds〉(雲) である。この版画に対し、三つのインデックスを与えることが可能である。一つは、主要な主題に関するもの、他の二つはアイコノグラフィ以前ではあるが興味深いと思われるものである。遠景の建築物も同定可能であれば、表示法に加えることができる。また、ダイダロスの右手の動作や、左手に持つ道具も対象とすることができる。

個々の作品にインデックスを施す方法は、作品の構図、その複雑さ、アイコノグラフィに関連する重要性などさまざまな要件と、個別的具体的な主題が同定可能かあるいは付属しているテキストなどに付加的情報があるかどうかによる。また、表示法の順序は、はじめに主要な主題、次に副次的要素の順となり、副次的要素は画面の左から右へ記録される。したがって、レオン・ダヴァン(LDのマスター) による版画が一つの表示法しか必要としない場合は以下のようになり、

95 B (PASIPHAE) 21 1

B. XVI 36 (Leon Daven [Master of LD]): Pasiphae confides her unnatural passion for the bull to Daedalus

他の表示法を必要とする場合は、次のようになる。

95 B (PASIPHAE) 21 1

B. XVI 36 (Leon Daven [Master of LD]): Pasiphae confides her unnatural passion for the bull to Daedalus <26 A / 26 A 32 / 31 A 25 55 2: 95 A (DAEDALUS)>

(パシパエ <26 A> 26 <clouds> 雲 <26 A 32> 26 <nimbus> 雲。また、<31 A 25 55 2> 26 <index finger forward, pointing, indicating> 指し示す)

【31 A 25 55 1 index finger upwards】

B. XV. 426.73 (Adamo Ghisi [Sculptori], after Michelangelo): Young man seated with a child < 11 I 62 (ELEAZAR) : 31 A 25 55 1 / 11 I 62 (MATTHAN) >

B. XV. 25.4 (Anonymous): John the Baptist in the desert < 73 A 18 : 31 A 25 55 1 >

B. XV. 67.2 (Gian Giacomo Caraglio, after Raphael): The Annunciation, with God the Father < 73 A 52 2 : 31 A 25 55 1 : 11 C 23 / 47 H 35 11 >

B. XIV. 292.384 (Marcantonio Raimondi, after Raphael?): Young man with a lantern < 11 H (JOHN THE BAPTIST): 41 B 33 : 31 A 25 55 1 : 31 A 24 7 : 47 I 21 31 / 11 Q 71 2 >

B. XIV. 279.366 (Marcantonio Raimondi, after Raphael): The old shepherd and the young man < 49 E 12 2 / 49 D 51 12 / 49 D 51 11 >

B. XV. 446.31 (Diana Ghisi [Sculptori], after Giulio Romano?): The archangels Michael, Gabriel and Raphael adoring the Madonna and Child < 11 F 5 : 11 FF 44 1 / 11 G 18 2 : 31 A 25 55 1 >

B. XV. 127.62 (Giulio Bonasone, after Parmigianino): The vision of S. Jerome < 11 F 5 : 11 FF 44 1 / 11 H (JOHN THE BAPTIST) : 31 A 25 55 1 / 11 H (JEROME) 34 : 31 A 23 6 >

B. XIV. 326.423 (Marcantonio Raimondi, after Francesco Francia?): Young mother talking with two men < 42 A 3 : 31 AA 23 51 (+2) / 31 D 12 : 31 A 25 55 1 : 31 A 25 55 2 >

「」で「pointing」という動作について同様の画像を持つ例を集めると、興味深いことがわかる。〈31 A 25 55 1 index finger upwards〉という表示法には、「S. John the Baptist」(洗礼者聖ヨハネ)が複数登場し、16世紀以降の画像においてはこの洗礼者聖ヨハネが荒野で上方(天国)を指差すことにある種の傾向あるいは伝統があることが類推される(図7)。これを基にすれば、マルカントニオ・ライモンディによる特定の版画(図8)の主題を同定することが可能になる。

図7. 〈31 A 25 55 1 index finger upwards〉による作品の分類



図8. マルカントニオ・ライモンディ「洗礼者聖ヨハネ」
大英博物館蔵

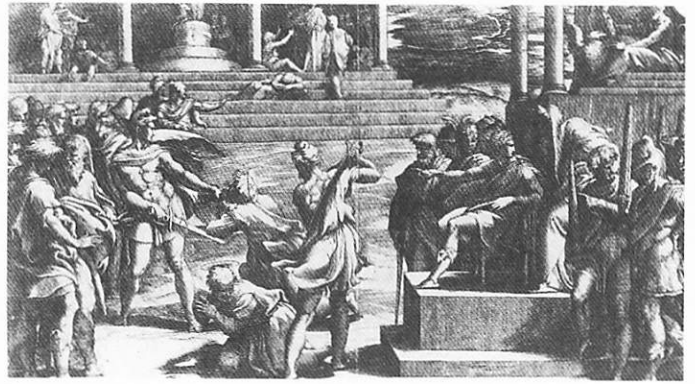


図9. ジョヴァンニ・ジャコボ・カラーリオ 〈聖ヨハネスと聖パウルの殉教〉
バルミジャーニョに基づく 大英博物館版画室

この作品は、通常〈The sign of the ram〉(羊のしるし)とされてきた(註8)。シューメイカーの述べているように、この版画については確立された主題は見出されていない。背景の教会あるいは修道院を理由に、若い男を軍神マルスに同定することもあるが、かなり困難な同定である(註9)。この画像の主要な要素は、〈lantern〉(手提げランブ)、『ram』(羊)、『lamb』(子羊)そして『nude young man』(裸の若い男)である。〈lantern〉という表示法をICONCLASの書誌で検索すると、J・マローウにより、洗礼者ヨハネに關し、『Lantern for the Lord』(神へのとし火)という記述が見られる(註10)。ここで新約聖書をみると、ヨハネによる福音書において、この洗礼者は『bright and shining lantern (or light) by Christ』(キリストによる燃えて輝くとし火あるいは光)と呼ばれている(註11)。このことと、天国を指差す身振り、荒野における洗礼者ヨハネがしばしば裸あるいは半ば裸の姿で描かれることを考え合わせれば、本版画の主題を同定するには十分であろう。羊でさえも、非常にまれではあるが、この洗礼者のアトリビュートとして登場している。時代は下るが、カラヴァッジョに帰属されるローマの作品では羊をこの洗礼者のアトリビュートとしている。それらは、『洗礼者聖ヨハネ一五九九年頃』と『エジプトへの逃避途上の休息一五九四/九六年頃』である(註12)。以上により、この作品に關する表示法は、以下の通りとなる。

73 A 18

B.XIV, 292-93, 384 (Marcantonio Raimondi): John the Baptist in the wilderness, usually accompanied by a lamb
 <31 A 25 55 1 : 41 B 33 : 47 I 21 31>

(↑↑↑)『<31 A 25 55 1>』↑『<index finger upwards>』であり、『<41 B 33>』は、『<lantern>』、『<47 I 21 31>』は、『<ram>』である。

また、インデックス作成に際し、作品の主題を同定したり、再同定したりする必要がある場合がある。バルミジャーニョに基づくジョヴァンニ・ジャコボ・カラーリオ (Giovanni Jacopo Caraglio, ca.1500-1565) によるエングレーヴィング作品の主題は、それにはアントニオ・ダ・トレント (Antonio da Trento, active 1527) によるキアロスкуро木版の作品もあるが(図9、図10)、すでにヴァザーリによってあやまって同定がなされている。ヴァザーリは、この作品を『Martyrdom of St. Peter and St. Paul』(聖ペトロと聖パウロの殉教)としている。ごく最近まで、この同定は踏襲されたままだった(註13)。この作品が見せる内容と、ICONCLASの『martyrdom of St. Peter and St. Paul』の記述とはかなりかけ離れている。聖ペトロと聖パウロについての表示法は以下の通りである。



図10. アントニオ・ダ・トレント 〈聖ヨハネスと聖パウルの殉教〉
バルミジャニーノに基づく 大英博物館版画室

- 73 F 21 6 martyrdom and death of Peter
73 F 21 64 Peter is led to this execution by four soldiers; his last prayer
73 F 22 42 Peter and Paul meet (and embrace) just before thier execution
73 F 21 65 Peter crucified upside down
73 F 22 4 martyrdom and death of Paul
73 F 22 43 the beheading of Paul: maybe three fountains spring from his head
73 F 22 43 1 Paul prays before his beheading

作品を見て指摘されるべき事柄は以下のとおりである。二人の人物ともに頭上に頭光をつけており、跪き今まさに首をはねられようとしている前景の聖人の側には二つの鍵が置かれている。このことから、この聖人は聖ペトロかもしれないという類推を起こさせる。一方の、中腰で兵士に腕をつかまれている聖人の同定が、問題となってくるが、聖ペトロと聖パウロの二人の聖人は、殺害される前に会ってはいるが、『黄金伝説』によれば、彼らは別々に殉教させられ、聖ペトロは首をはねられたのではなく、逆さ十字の刑に処せられたのである（註14）。また、右上の神像が異教のものではないかという疑問もある。

ICONCLASSのもう一つの利点は、どこかしらが誤っているとき、システムがインデックス編集者に注意を促してくれることである。他の言葉で言えば、このシステムはインデックス編集者に主題同定の正しさについて、照合させる機能を持っているということである。この場合には、すでに述べた疑問を一つずつ検討することによって、これらのバルミジャニーノに基づく版画の本当の主題は、〈Martyrdom of St. John and St. Paul (brother-saints Giovanni e Paolo)〉（聖ヨハネスと聖パウルの殉教）だということがわかる。ここで、同名の〈St. John〉をヨハネおよびヨハネスと訳し分けているのは、日本語翻訳上の問題であって、事柄の本質的問題ではない。表示法は以下の通り。

- 11 H (JOHN & PAUL) 6
B. XV. 71.8 (Giovanni Jacopo Caraglio, after Parmigianino): martyrdom of Sts. John & Paul
B. XII. 79.28 (Antonio da Trento, after Parmigianino): martyrdom of Sts. John & Paul



図11. アントニオ・ファントウッチ 〈ヒュプノスを訪ねるイリス〉
ブリマティッチョに基づくメトロポリタン美術館

ここで考慮すべきことは、他の可能性として二人の男が同時に殉教を遂げる場面があるかどうかということである。『黄金伝説』によれば、それらは「聖ヨハネスと聖パウルス」および「使徒聖大ヤコブ」の場合であることがわかる。「使徒聖大ヤコブ」(註15)の場合は、ヘロデ・アグリッパ王によって刎首の刑を言い渡されるが、丁度その時居合わせた法律学者ヨシアスは、ヤコブの現した奇跡に目覚め、ヤコブから洗礼を受け、二人同時に殉教を遂げたのである。しかし、『黄金伝説』の記述では、このヨシアスは聖人としての扱いを受けておらず、また異教についての記述もみられない。一方、『黄金伝説』八二章「聖ヨハネスと聖パウルス」によれば、ローマの高官であった兄弟のヨハネスとパウルスは、背教者ユリアヌスの時迫害され、ユリアヌスによって派遣されたテレンティアヌスから、黄金のユピテル像を礼拝し香を献じるよう命令された。二人はそれに従わず、テレンティアヌスによって二人一緒に首をはねられたのである。この殉教者を記念して四〇〇年頃ローマに建てられたのがサン・ジョヴァンニ・エ・パウロ教会であった。聖伝は五世紀頃成立したと考えられている(註16)。また、聖ペトロ同様、聖ヨハネスもそのアトリビュートに鍵を持つとされる。図様からもヨハネスとパウルス(John and Paul = Giovanni e Paolo)は、右側後方にある異教の神ジュピターの彫像を崇敬するよう命令され、もちろん彼らはそれを拒否したのである(註17)。

多くの場合、ICONS CLASSは非常な助けとなるものではあるが、ある作品の正しい主題が何であるか見出すのが常に簡単というわけでもない。例えば、ブリマティッチョに基づくアントニオ・ファントウッチによる版画(図11)(註18)がこの場合のよい参考例となると思われる。フォンテーヌブロー派の版画についての著書の中でゼルナーは、その主題を「The sleeping Saturn」(眠るサトゥルヌス)としている。バルチュのより記述的なタイトルは、「A winged woman seated, raising her arm to shield Saturn from the last rays of the sun」(翼のある女がすわり、腕を上げて太陽の最後の光からサトゥルヌスを隠す)である。この版画に描かれた主題が明らかかなものとしても、サトゥルヌス(クロノス)の物語にはこの図様にみられる場面は登場してこない(註19)。ここで図様の中からアイコノグラフィ以前記述を探すと、それは「winged woman」(翼のある女)あるいは「sleeping man」(眠る男)である。これらの表示法からは、「winged」によつては明確な手がかりは得られないが、「Sleep」(眠り〔眠りの擬人像〕)＝「Hypnos 92 N 5 (story of) Hypnos (Sleep) and his brother Thanatos (Death)」(ユプノス〔眠りの神〕とその兄弟タナトス)を得ることによつてすぐ近くの表示法(92 N 54 51 Iris visits Hypnos on Alcyone's behalf) (アルキュオネのためにヒュプノスを訪ねるイリス)を見出し、それによつてファントウッチの画像にほぼ似通う記述にたどり着ける。イリスは、虹を擬人化した有翼の女神で、神々の使者である。眠りの擬人神ヒュプノスは、翼を有し、そのアトリビュートは梟とケシである。オウィデウスの『変身物語』によれば、イリスがヒュプノス(翼のある老人として表現される)を訪ねるくだりがある。こ

の出来事によれば、ユピテルの妻ユノは、イリスをヒュプノスのもとへ使わし、夫ケククス王の不幸を露知らず、いまはむなしき帰国を待つアルキュオネに夢で夫が船の難破により溺れてしまったことを伝えさせたのである。そのテキストは以下の通りである。

The goddess entered, and brushed aside with her hands the dreams that stood in her way. Immediately the god's dwelling was filled with the shining gleam of her bright raiment, and Sleep himself struggled to lift his eyes, languid and heavy with slumber. Again and again he fell back and, as his head drooped, his chin nodded against his breast. (註20)

処女神「虹（イリス）」がここへ入って、手で邪魔な夢たちをはらいのけると、この荘厳な館は、女神の衣の輝きで照り映えた。「眠り」の神は、どろんと重たげな目を辛うじてあげ、何度も何度もうしろへたおれかかりながらこくりこくりする顎を喉頭のあたりにぶっつけていたが…」（註21）。

以上により本版画の画面右に向かって、我々は溺れたケククスがトリトンや他の海の怪物たちに取り囲まれているところをみるのである。主題および各要素の表示法は以下の通り。

- 92 N 54 51 Iris visits Hypnos on Alcyone's behalf
- 92 N 54 Hypnos (Somnus), Sleep
- 31 B 10 personification of sleep
- 93 G the House of Sleep

したがって、作品の表示法は以下のようなになる。

- 92 N 54 51
- Zerner 72 (Antonio Fantuzzi, 1544): Iris visits Hypnos on Alcyone's behalf < 92 N 54 : 31 B 10 : 93 G : 95 B (ALCYONE & CEYX) : 92 H 39 1 >

おわりに

以上さまざまな場合の事例を通して、美術作品（ここでは16―17世紀の版画）におけるインデックス編集をみてきたが、得られたデータの集積は、要約すれば〈（典拠）番号・作者・制作年・主題・副主題あるいは要素〉という単純な構造を持つ情報となる。これらの情報は、コンピュータ内の多くのアプリケーションのデータ・ソースとなる構造でできている。また通常の出版形態を取るにしても、各項目の索引を作成することによって編集可能であり、目録形式には最適であろう。その利用方法については、一例を図7として先に例示した。

言うまでもなく、「有用なリソース」を制作するためには、アイコノグラフィに関するインデックス作成には膨大な量の仕事が残されているが、我々のアイコノグラフィに関する知識が単一のドキュメンテーション・システムに蓄積できれば、アイコノグラフィに関する情報の検索はより簡単なものとなるだろう。また、美術作品の主要主題がインデックスされることによってばかりでなく、姿勢や身振りなどの詳細がインデックスされることによって、新しい研究が可能になると思われる。初めに述べたように近現代の視覚芸術にもその応用は開始されているため、西洋文化に関連する美術、あるいはそこから影響を受けた美術に関して、機関のコレクションの一部にこのシステムを適用して行くことにより成果が得られるだろうと思われる。残念なことに、西欧との文化的・社会的接触の度合いにより、文献量の多少が左右されるため、アジアの文化についてはあまり多くの文献を収集しておらず、特に日本の美術に関しては取り上げられている文献が、仏教あるいは神道に関連するものだけとなっていることから、現段階ではあまり大きな成果は期待できない。しかしながら、美術の分野によっては可能性がないわけではない。物語、名所あるいは行事にかかわる風景画、抽象的な表現の分野などである。また、近世から近代にかけて西欧に影響を受けた表現においても、西欧文化圏の画像を借用しながら、その意味において二重のあるいは異なった意味を持つ可能性もあるかもしれない。しかし、この段階においては、ドキュメンテーションの範囲を超えてしまう。

すでに冒頭で述べたように、資料（美術作品・文献・視覚資料等）という多量のコレクションを持つ我々は、冒頭で指摘したさまざまな視点からの「検索」を要求する現在の状況に対応できるだろうか。従来の分類に置き換えられるようなシステムを持つてはいなし、新たに再分類することは不可能であるように思われる。また、分類のための他の実現可能なシステムもいまだ考えられていない。一方、代りとなる主題によるインデックスの伝統は、柔軟性を持っているし、コンピュータを使用することによって、重層したカテゴリーを提供できると共に、作品についての情報をさまざまな仕方で配列できるという利点を持っている。改良と拡張により、すでに永い歴史を持つこの主題によるインデックスは、より広い視点からの利用に耐えるものへと発展できると思われる。

- 1 H. van de Waal, *ICONCLASS an iconographic classification system*, 17 vols., North-Holland Publishing Company, Amsterdam/Oxford/New York 1981.
- 2 E. Bakewell (a.o.), *Object, Image, Inquiry: The art historian at work*, Santa Monica, 1988, p.147.
- 3 数少ないアイコノグラフィーに関するインディックスは A. Pigler, *Barockthemen. Eine Auswahl von Verzeichnissen zur Ikonographie des 17. und 18. Jahrhunderts*, Budapest 1974 83vols. 426頁 J.D. Reid, *The Oxford guide to classical mythology in the arts, 1300-1900s*, New York/London 1993. 746頁。
- 4 F. Garnier, *Thésaurus iconographique. System descriptif des représentations*, Paris 1984. 11のハンデックス・フランス文化省のデータベース *Inventaire General 用のアイコノグラフィーの記述に使われている*。D. Piot & F. Bergeaud, "Recherches iconographiques automatisées sur les bases documentaires du Ministère de la Culture," in: H. Rouit & J.-P. Dubouloz (eds.), *A l'écoute de l'oeil. Les collections iconographiques et les bibliothèques. Actes du colloque organisé par la Section des Bibliothèques d'Art de l'IFLA*, Geneve, 13-15 mars 1985, München 1989, pp.279-290.
- 5 Irving Lavin, in: L. Corti & M. Schmitt (eds.), *Automatic processing of Art History Data and documents*, Pisa, *Scuola Normal Superiore*, September 24-27, 1984. Proceedings, Pisa 1985, p.329.
- 6 Bartsch XVI, p.319, no.36; H. Zerner, *Die Schule von Fontainebleau. Das graphische Werk*, Wien 1969, p.46, no.LD. 93.
- 7 上の物語および古典的文学のソースに関する文献は、以下を参照。F.A. Wright, *Lemprières classical dictionary of proper names mentioned in ancient authors*, London 1949, p.449, s.v. Pasiphae.
- 8 I.H. Schoemaker, *The Engravings of Marcantonio Raimondi*, Spencer Museum of Art: Lawrence 1984, pp.84-85, cat.no.16, B.XIV, 292-93, 384; P.VI, 36,230; D.178.
- 9 B.F. Davidson, *Marcantonio Raimondi, The Engravings of his Roman Perios*, Radcliff College, Harvard University: Cambridge MA 1954. p.192.
- 10 *ICONCLASS Bibliography* 4-1, Amsterdam 1975, p.21, under 41 B 33.
- 11 Gospel of John 5:35. J. Marrow, "John the Baptist, lantern for the Lord: new attributes for the Baptist from the

- 12 Northern Netherlands," *Oud Holland* 83 1968, pp.3-12.
- 12 R. Guttuso & A. Ottino della Chiesa, *L'opera completa del Caravaggio*, Milano 1967. (Classici dell'arte 6), pp.92-93, no.39. *S. John the Baptist*, (Musei Capitolini, Rome) and no.40. *The Rest on the Flight into Egypt*, (Galleria Doria Pamphili, Rome)
- 13 D. Landau & P. Parshall, *The Renaissance print 1470-1550*, Yale University Press: New heaven and London 1994, pp. 154-157., pl. 161, 162.
- 14 J. de Voragine, *Die Legenda Aurea*, Heidelberg 1979, p.433.
- 15 ヤコブス・デ・ウオラギネ (前田敬作他訳) 『黄金伝説』第二卷 人文書院 一九九七年 四六六-四八六頁
- 16 ヤコブス・デ・ウオラギネ (前田敬作他訳)、『前掲書 三三三—三三八頁
- 17 J. de Voragine, op. cit., p.423.
- 18 *The French Renaissance in Prints from the Bibliothèque National de France*, (exh. cat.) Grunwald Center for the Graphic Arts University of California: Los Angeles 1995, p.78, fig.22.
- 19 Homer, *Iliad* 14.203f., 14.271ff., 15.221ff.; Hesiod, *Theogony* 137-210, 168-82, 453-91; *Works and Days* 169ff.; Pindar, *Olympian Odes* 2.700ff.; *Orphic Hymns* 13; Apollonius Rhodius, *Argonautica* 2.1231-41.; Virgil, *Aeneid* 7.180f.; Horace, *Epodes* 16.63.; Ovid, *Metamorphoses* 1.89-116, 2.676, 6.126; Fasti 4.197ff. Apollodorus, *Bibliotheca* 1.1.102.1.
- 20 Ovid, *Metamorphoses*, Harmondsworth 1979, p.262.
- 21 オウィデウス (中村善也訳) 『変身物語 (下)』岩波文庫 一九九七年 一四〇—一四三頁